

平成30年度北海道地区のサーベイランス状況について

研究分担者:北海道大学大学院医学研究科神経内科 佐々木 秀直

研究協力者:矢部 一郎,高橋 育子,松島 理明,白井 慎一,森若 文雄

表 平成30年度サーベイランス調査 (27名)

	孤発性CJD	遺伝性CJD	CJD否定
例数	16	4	7
男:女	6:10	0:4	5:2
平均年齢 (歳)	68.6±10.3	72.8±19.4	69.1±15.0
		P102L: 1例 V180I: 2例 M232R: 1例	自己免疫性脳症 2例 身体表現性障害 脊髄小脳変性症 大脳皮質基底核症候群 頭部外傷後遺症 診断未確定の認知症 各 1例

解説

1. CJDが疑われた27名のサーベイランスを実施した。
2. 孤発性CJD 16名と遺伝性CJD 4名を報告した。
3. 孤発性CJD症例数は平成11年度以降最多症例数であった。
4. 脳MRI拡散強調画像で皮質高信号を呈したが(下図)、臨床経過と検査所見よりプリオン病を否定し、大脳皮質基底核症候群と臨床診断した症例を報告した。

